

## 患者さんに 喜んでもらうために、 知力と技術を常に アツプデートしています。

### 大学時代に学んだ コミュニケーションの 大切さを心得に。

実家が眼鏡屋を営んでいたこともあり、子どもの頃から眼への関心は強く、国家資格である視能訓練士をめざして、視覚科学専攻に入学しました。2011年に大学を卒業してから現在まで、独立行政法人地域医療機能推進機構・中京病院の眼科で視能訓練士として従事しています。視能訓練士は、視機能検査や視能矯正のための訓練を行います。乳幼児から高齢者まで幅広い世代の方と接し、見え方や症状の情報を正確に聞き取り把握する必要があるため、患者さんに安心を感じてもらえるよう一人ひとりに適切なコミュニケーションを心掛けています。大学時代の臨地実習の際、実習先の視能訓練士が世代や症状が異なる患者さんに合わせて接したり話したりする姿を間近に見て

学べたことが、今の私の原動力になっていると思います。また、大学1・2年次には学祭実行委員をしていたのですが、他学部の学生や大学外の人たちと交流する機会も多く、その時の経験からも社会性やコミュニケーション力を培う土台ができたと感じています。

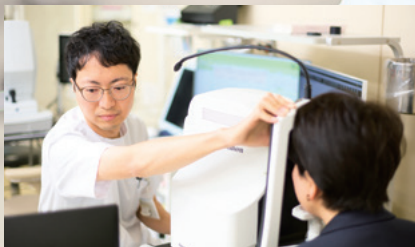
### 患者さんや後輩たちの 喜びが、仕事の楽しさに つながっています。

当院の眼科は、幅広い眼科疾患に対応しているため、患者数も多く、検査機器の数も多いこと、そして研究実績も高く、私をより成長させてくれる環境です。現在、私は患者さんの検査や訓練、視機能の回復が困難な方に対して補助具の選定やリハビリの提案などで支援するロービジョンケアの他、網膜についての研究にも取り組んでいます。先頃は網膜剥離の術後の視機能に影響を与える要因を

検討して論文を発表しました。さらに昨年から、母校の非常勤講師として、網膜の断面写真を撮影するOCT(光干渉断層計)の操作方法や所見についての指導を行っています。学生たちの関心を高められるようわかりやすい授業を工夫しています。今後改善を重ねていく予定です。そのためには私自身のアップデートも必要です。臨床や研究を通じて新たな知識を増やすことは、高精度な検査の提供につながり、患者さんや指導する後輩たちの喜びにもつながると考えます。そして、私が楽しく働くための糧にもなっています。所属する公益社団法人日本視能訓練士協会には、生涯教育の一環として「認定視能訓練士」と「専門視能訓練士」の称号が授与される制度があります。私は今、キャリアアップのため、専門視能訓練士をめざし、新たな論文発表に向けて日々、研鑽中です。愛知淑徳で学ぶ皆さんも常に向上心を持ち、自分をアップデートしていくことをおすすめします。



大学時代、楽しかった思い出のひとつが学祭実行委員会の活動です。学祭の飾りつけや広報活動を通して生まれた学内外の交流によって、仲間が増え、世界が広がりました。



網膜の断面を画像化し、様々な眼の病気の発見につながるOCT検査。大学の授業では、機器の操作のコツや所見のポイントなどを後輩たちに指導しています。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 中京病院  
眼科 視能訓練士

## 杉岡 勇希さん

2011年2月に視能訓練士の国家資格取得。3月に愛知淑徳大学医療福祉学部(現・健康医療科学部)医療貢献学科視覚科学専攻を卒業後、独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院に入職。臨床現場での検査や訓練の他、網膜を専門に研究。視覚科学専攻の非常勤講師として後進の育成にも携わっている。